

# 日伯新聞

Calca, 375 S. Paulo  
Telephone 2-3926

## パイオニアを ねぎらふ

とうとう渡伯二十五周年とやらの日が来た、だが何と云つてお祝ひの言葉を述べていゝのか解らない、あちこち聞かしてはみるに、渡伯以外の人は誰も他人事のように心得てゐるかして一向のきいた返事をしてくる者がない、中には日本移民が来かけて二十五周年になるから二十五周年と云ふのでせう、日本の茶園や扇子が来かけて二十五周年になると云ふのと同じで、こんな返事をする者さへある、

## 依然赤字公債發行か 居据内閣明年度豫算

〔東京八日發〕 齋藤非常時内閣がこゝつて、歳入は經常部が概々十のまゝ居据つて九年度豫算を編四億圓、臨時部が公債を除いて成するに至るであらうことは略々明瞭となつたが去る六十四議で差引約八億圓の公債が昭和九年年度必要となる譯であり、従立については努力すべしとて財政は九年度も依然としての嚴重な決議を突き付けられ、困難、巨額の赤字公債の發行を要する現内閣が果して如何なる態度をもつて九年度豫算を編成するかの最も興味ある問題である

### 昭和九年度 軍事費豫算

〔東京五日發〕 海軍省所管昭和九年度豫算は目下計理局で審議中であるが總額が略々本年度と同様の四億圓程度である

### 政府と絶縁せよ 政友会内硬派は叫ぶ

〔東京六日發〕 齋藤内閣居据り派五十七名發起となり東京會館に有志代議士會を開き硬派全部の對政府態度に關し、之を支持の足並を揃へるの大勢を指導せんとするもの並に之と絶縁せんとするもの二派に分れ、急砂田、岡田、原の諸氏等は本日進派の砂田重政、岡田忠彦氏等左の如き聲明書を政友會所屬費は鈴木總裁に對し斷乎絶縁すべ業兩院議員に送達した

### 陸軍豫算の 減少は無理だ

〔東京五日發〕 荒木陸相は午前九時上野發新湯縣に出張の途中車中で語る

### 徳川公 貴院議長辭職 後任は近衛公

〔東京八日發〕 貴族院議長徳川家達公は本年で勤続三十年となるを機会に後進に途を拓くため圓満辭職を決定、本日近衛副議長長に辭職を提出し更に齋藤首相を訪問し辭職を求めた、首相は事情を諒し之を承諾する事となり、近衛公は宮内省より御前に奉呈、内閣へ御下渡を待ちながら御裁可を仰ぎ即時左の如く發令された

### 火薬庫爆發

濱松飛行聯隊の機庫

〔八日聯合〕 陸軍省の公表によ

り生れたる變態的存在なり、既に六十四議會を終りたる今日其存在の意義を終結したものと認む、此際立憲政治の眞髓を發揮し政黨政治の確立を期すべく、我黨は此精神により議會政治即ち國民の總意を反映するの政治を樹立せんが爲黨出身の關係を即時引退せしめ茲に黨の面目を發揮せんことを期す、我黨は自由由獨自の立場に於て重大なる時局に直面し益々國家國民の付託に副はむことを期す

れば濱松飛行聯隊火薬庫の爆發に際し輕傷將士十四、重傷二、生死不明一、損害は彈藥庫等破壊八棟、屋根は四散、鐵扉吹きとばされ、外に重機機、輕機機三臺破壊され、憲兵司令部への入電では行衛不明廿名に達す

損害高は二、三百万圓と見られ右損害に就ては取敢へず聯隊建物、格納庫の應急復舊費を大蔵省に要求すると共に工事に着手するの豫定である

渡邊會計事務所

一般商業登録帳簿整理

營業許可手續

聖市コンソリエロ

フラタド街八一番

會計士 渡邊儀平

電話二二三八七番

## 祝渡伯廿五周年

珈琲 コミサリオ

カーザ 東山

ミツカミ・イ・コムパニア

サントス市ブラツサ・マウアー二五番

モンテ・デステ・テ・カムビーナヌ農場

パウリスタク線カムビーナス・郵函五九番

モンテ・デステ・テ・ピンタモニヤンガーバ農場

中央線ビンダモニヤンガーバ・郵函一〇番

呼寄

電話二二三八七番

Rua José Bonifácio, 12 - Tel. 2-7232  
Caixa Postal, 1757 - S. Paulo

FAZENDA NOMURA

CAIXA "NOMURA" - BANDEIRANTES - PARANÁ

L. S. PAULO-PARANÁ - - - via OURINHOS

祝渡伯廿五周年

野村合名會社

南米農場

祝渡伯廿五周年

横濱正金銀行

リオ支店



伯國法律漫談

昔のブラジルの女と 父親の權威

杉山帆影

飛行機やラヂオの時代、一九〇〇を加ふる權能を興へてゐたの三年のブラジルの女は、コツである。その結果此の權力の濫...

方につつてくれつて云ふんです。助けて下されば身一つで、家も土地も遠くへ立退つて云つて...

家庭は宛然同教徒の牢獄の觀が、あつた。その中で妻は全然世...

輸送船二百三隻

人員一二七〇四〇名 廿五年間の入伯移民

Table with columns for ship names (e.g., 船名, 取組人), destinations (e.g., 目的地), and passenger counts (e.g., 乗組員).

期待される 聖州棉

聖州棉

在神戶伯國領事より報によれば最近同地へ最初のブラジル...

Table with columns for years (e.g., 年), quantities (e.g., 数量), and prices (e.g., 價格).

眠る箱をかこんで、兄弟や妻や年端もいかに二人の子達が誤に暮れてゐた...

Table with columns for years (e.g., 年), quantities (e.g., 数量), and prices (e.g., 價格).

祝渡伯廿五周年

内山吉藏

祝渡伯廿五周年

矢部洋服店

祝渡伯廿五周年

祝渡伯二十五周年

パール東京

祝渡伯二十五周年

佐藤由

祝渡伯二十五周年

丸山丈夫



### 在留同胞の 所有土地面積

二百六十五万町歩

左に掲ぐるものは、農務部調査に  
係る一九三一年末現在在留邦人  
所有土地面積の實数である。其  
總面積は實に二百六十五万二  
千八百二十七町歩に達するが、内  
二百八十五千餘町歩は南米植  
植以下四團體のコンセンソ  
ン地帯が大部分をなし、實際利  
用されては其一小部分にすぎ  
ない。然るに南伯の五十六万七  
千餘町歩は移住組合所有のチ  
テ、北、南、東、西の大部分  
及び日伯企業組合の北、南、東  
有地を除く外は大部分生産地帯  
で在留農家十五万人は大體この

### 在伯同胞間の 産業組合實勢

在留邦人間に産業組合の設立を  
見たのは一九二八年創設のチ  
ア産業組合を嚆矢とするが爾來  
母國政府補助金にも刺戟されて  
各地に設置運動起り一九三二年  
八月末現在登録済のもの並に任  
意組合を合して二十八、組合員  
二千七百六十八、出資總額一千  
八百五十八万八千五百〇五円  
拂込済九百七十七万五千〇〇  
円といふ数字を示してゐる。素  
より未だ歴史も浅く組合員間に  
於ける組合精神の徹底を缺き、  
成績佳良とは申し難いが、嚴然  
たる其存在の必要性から幾多の  
失敗を繰返しつつも行くは  
立派な事業成績を挙げ得られる  
ものと期待されてゐる。今當地  
總領事館調査部の調査に基き一  
九三二年八月末現在在留邦人經營  
産業組合實勢につき、當國政府の  
公認を得た所謂登録組合並に未  
だ其手續に及ばない任意組合別  
に表示すれば次の如くである

(イ) 登録組合	一、一、一、一、一
(ロ) 任意組合	一、一、一、一、一
(ハ) 出資總額	一、一、一、一、一
(ニ) 拂込済額	一、一、一、一、一

北伯 二〇、〇〇〇、〇〇〇町歩

南伯 一〇、〇〇〇、〇〇〇町歩

在留同胞所有土地總面積  
二、六五八、二七七町歩  
南伯 一、〇〇〇、〇〇〇町歩  
北伯 一、六五八、二七七町歩

一、移住組合及企業者所有の  
移住組合移住地(四ヶ所分)  
計 三、〇〇〇、〇〇〇町歩

(イ) 購買事業	一、一、一、一、一
(ロ) 購買事業	一、一、一、一、一
(ハ) 購買事業	一、一、一、一、一
(ニ) 購買事業	一、一、一、一、一

(イ) 購買事業	一、一、一、一、一
(ロ) 購買事業	一、一、一、一、一
(ハ) 購買事業	一、一、一、一、一
(ニ) 購買事業	一、一、一、一、一

購買事業	一、一、一、一、一

購買事業	一、一、一、一、一

購買事業	一、一、一、一、一

祝渡伯廿五周年

山本洋服店

山本育造

祝渡伯廿五周年

佐藤一郎

祝渡伯廿五周年

宮崎八郎

祝渡伯二十五周年

齒科 醫學

伊藤達馬

祝渡伯二十五周年

ブリグキ

中央日本人會

祝渡伯二十五周年

商業俱樂部

飯田商店

青木多喜藏

平田武雄

平田商店

祝渡伯廿五周年

中村旅館

中村忠吉

祝渡伯廿五周年

日本人會

祝渡伯二十五周年

ブリグキ

日本人會

祝渡伯二十五周年

森田松一

祝渡伯二十五周年

日伯拓植會社

巴拉マンサ農場

祝渡伯二十五周年

日本人會

祝渡伯廿五周年

日本人會

祝渡伯廿五周年

日本人會

祝渡伯二十五周年

日本人會

祝渡伯二十五周年

日本人會

祝渡伯二十五周年

日本人會

祝渡伯二十五周年

日本人會

# のろしを擧げた 世界不況打開の叫び

## 世界經濟會議を解く

### 世界經濟會議

正統の前進は政治家をして世界不況の前に戦つせしめてゐるの

### 卸賣商品

価格はこの

### 米將校の観た 日米戦争

### 學生競技 早大優勝

### 藝術に國境あり カチスの暴状

### 稼ぎ出すもの ペンの先から

### 祝渡伯廿五周年

ある、豊富な原料と優秀な技術  
家を持つアメリカは鬼に金棒で  
ある、世界中で一番勝れた技術  
者や科学者は米國に集つてゐる  
その總てが米國人ではないが米  
國は過去永い間、世界各國の産  
んだ人材を輸入してゐる

【斯】 現在アメリカの戦  
十八ヶ月乃至二年間押へ得る  
力があるならば、アメリカは地  
球ぐるみ日本を大掃除し得る位  
ヤツプがある、先づ材料が米  
國の如く豊富でない、技術者  
や科學者が不足してゐる、こ  
れに反し米國大總統は宣戰布  
告の日から人力、労働、資本  
を徴發し得る絶對的權能を附  
與され、舉國一致戰爭に勝つ  
といふ唯一の目的に向つて邁  
進する、モーターやトラックの  
製造工場はタンクの製造に、  
自動車の製造工場は飛行機の  
製作に、數千の小機械工場は  
雨か、風か!

【の】 點から見ると日本  
は著しいハンデチ  
球ぐるみ日本を大掃除し得る位  
ヤツプがある、先づ材料が米  
國の如く豊富でない、技術者  
や科學者が不足してゐる、こ  
れに反し米國大總統は宣戰布  
告の日から人力、労働、資本  
を徴發し得る絶對的權能を附  
與され、舉國一致戰爭に勝つ  
といふ唯一の目的に向つて邁  
進する、モーターやトラックの  
製造工場はタンクの製造に、  
自動車の製造工場は飛行機の  
製作に、數千の小機械工場は  
雨か、風か!

【米】 開戦となれば太平  
洋上に點々たる米艦隊の行  
動はハワイを一步も出ないで  
二年間日本の來襲を防ぎ得た  
らば、必ずやアメリカの勝利と  
告したが、獨逸國立オペラには

祝渡伯廿五周年  
野村隆輔

祝渡伯廿五周年  
藤井正人

祝渡伯廿五周年  
宮本浩

祝渡伯廿五周年  
祝渡伯廿五周年

祝渡伯二十五周年  
人事相談所 旅館  
鈴木季造

祝渡伯二十五周年  
古賀旅館

祝渡伯二十五周年  
マキナ  
ジャポネーザ

祝渡伯二十五周年  
祝渡伯二十五周年

祝渡伯二十五周年  
有責任プロミッソン  
産業組合

祝渡伯二十五周年  
有責任プロミッソン

祝渡伯二十五周年  
黒嶋醬油  
醸造所  
黒嶋伊平治

祝渡伯二十五周年  
黒嶋醬油

祝渡伯二十五周年  
有責任プロミッソン  
産業組合

祝渡伯二十五周年  
有責任プロミッソン

祝渡伯二十五周年  
有責任プロミッソン  
産業組合

祝渡伯二十五周年  
有責任プロミッソン



祝渡伯二十五周年

料亭 青柳

聖市コンセルイロ・フルタード街一二番  
電話 二一九四八番

祝渡伯二十五周年

米國醫學士  
伊藤庄吉

聖市コンデ・デ・サルゼーダス街二〇番  
電話 二二六八八番

祝渡伯二十五周年

齒科 醫  
金城山戸

聖市アベニダ・コンデツサ・  
デ・サン・ジョアキン二六番  
電話 七三三八番

祝渡伯二十五周年

齒科 醫  
村上眞市郎

聖市コンデ・デ・サルゼーダス街十番  
電話 二二〇二九番

祝渡伯廿五周年

PHARMACIA E DROGARIA  
Tabatinguera  
Rua Tabatinguera 2 - S. Paulo  
日本藥局

聖市タバチンゲラ街二番  
電話 二二六七四五番

祝渡伯二十五周年

家具商  
カーザ東京

聖市サンタ・エリジニヤ街一八  
電話 四六四八七番

祝渡伯二十五周年

石井洋服店

聖市 コンデ街四三番  
電話 二一三五〇番

祝渡伯二十五周年

自動車業  
林岩松

聖市ビネーロス  
アルコ・ベルデ街三五二番

祝渡伯二十五周年

雜穀、馬鈴薯、米、米糠  
肥料、農業藥品、農具  
賴信商會

聖市アニヤンガバウ街一七〇番  
電話 四二二八二番 郵函 一七七一番

祝渡伯二十五周年

自動車附屬品一切  
小牧政敏

聖市ロドリゴ・シルバ街三八番  
(コンプレッソ市場裏)  
電話 二二五七七三番

祝渡伯廿五周年

相洋御菓子、ソルベツテ  
製造、卸小賣

カーザ・モトム

末崎峯作

本店 聖市コンソラソン街三二〇番  
電話 五五〇二三番  
支店 同 コンソラソン街一四〇番  
電話 四一四二四番  
同セバスチオン・ペレーラ街一四番  
工場 ミナス・セラエス街二七番  
支店 サントス市 ゴンザガ

CASA MOTOMU

年周五廿祝

日本品雜貨書籍  
遠藤商店

聖市コンセルイロ・フルタード街八  
電 二一〇三五 郵函 二八七八

年周五廿祝

和洋御菓子並儀式用菓子  
牛乳、ソルベツテ  
西中菓子店

聖市コンセルイロ・フルタード街五番

祝渡伯二十五周年

公認土木  
建築技師

原田政平

聖市 アベニダ・サン・ジョアン八十五A  
二階一三、一四號室  
電話 四一七一四番

祝渡伯廿五周年

大原兄弟商會

本店 ノロエステ線アラサツパー市  
支店 同線グワララツベス町  
支店 聖市パウラ・ソーザ街四六B  
電話 四一八三三

祝渡伯廿五周年

聖市羽瀨商店  
カンバラ羽瀨支店

祝渡伯廿五周年

蜂谷兄弟商會

リオ市 テオファイロ・オトニ街八十二番  
聖市 プリガデイロトピアス街百十番







### 輸送監督私見

マニラ丸 鈴木貞次郎

先づマニラ丸がケープタウンを出帆するや岩松事務長率先し武谷船長、有馬一等運轉士其他幹部總出で眼疾の疑あるもの二百五十餘名の〇〇をなす練習を開始し、殆んど隔日之を繼續公行した、マニラ丸の幹部が全員にて指揮しつゝある點より觀てこれが行爲は

…大阪商船會社…

の指示によるものと思考する事も出来るが、余は日本國民であると同時に日本植民の草分けとして渡伯し一九一一年以來伯國の選舉權を有する考の立場より斯の如き不法行爲を公然と敢行し、國法を蹂躪して何等の罰を蒙らざるを以て何等の相談も受けなかつたのでマニラ丸幹部のなすがまゝに一任し助手に對しても本問題に觸れるを避けしめたのであるが、商船會社は既に百數十回に達する航海に鑑みブラジルに於ける眼疾の態度を諒解し最善の方策を各船に指示し遺棄無きを期さねばならぬ、聞くところによれば原節ドクトルの如きは十八回に亘る航海中たゞの一名も〇〇を患はず事故なく検査を通過せしめた由であるが、検査醫と船醫との緊密なる接近は更に商船會社の努力に俟つて公然の秘密たる△△により本問題を解決すべきであらう

### …今回の航海に…

於て余を驚ろかせしめたるは商船會社を代表する事務長と海船會社を代表する監督との権限に關する諍論なく輸送上固済なる事務の進捗をみなかつた事である、監督心得なる海船會社の指示書により總ての事務を處理せんとした余は、そこに記述された事項と實際との餘りにも甚だしき懸隔に驚嘆したのである、これは余一人の問題としてではなく、將來輸送上の改善に資するため聊か記しておきたいと思ふ

マニラ丸が第一航海に於て門司に投錨する際余は肥後助手に下船希望者名簿を作成せしめ之を事務長に呈示してライセンスを得るべく手筈を進めてゐたが圖らざりし事務長が二人の者に下船許可證を與へた事を發見した、下船の許可證は素より船長の權限にあるも監督の同意なき場合よく相互の意見を通せしむべきであつて「船の事は船でやる」といふ岩松事務長の信念は聊か專横の觀があるやうである、マニラ丸が門司を出帆して間もなく「マニラ丸新報」を發刊するや岩松事務長の新聞班に對する彈劾干渉甚だしく、新聞班長齋藤三郎、編輯主任瀧崎吉平兩君は余に訴へ、不法の差出を以て余に辭任したき旨を申出た來、時恰も小學校開校問題に關し余の見解と一致せざる點多々あるを以

### コノのたわごと

伯 眠 生

人間の喜怒哀樂などに対する感情のうごき方は、その人の環境と、自覺の程度に依つて支離せらるゝ事が多い。従つて社會的にも、その構成分子の何れにペンチマークを置かによつて、これまた朗らかにもなり憂鬱ともなるの様に考へられる。ブラジルの生活様式であつても、かつて祖國で味つた甘美な夢や都會文化の偽物に、只管渴仰する様程の度で律せられてゐる間は、決して俗達の望んで

…世界…

世界の黄金の樓閣は、今や當然來べき宿命に見舞はれてゐる。天の下に、自己崩落の運命を辿る奇怪な雲の舞臺! やがて世間に爛漫の春が普つた時、果敢ない姿となつて消え失せるであらう

擧げざるを得ない。元來ブルジョアとブルンベンは、形の上でこそ兩極端を走つて居る様なもの、その本質に至つては殆んど變りがない事に依つて宿命にある。達の間に第一線に立つてゐる、人間の最高に於けるものは、その根本の上で相容れないものがある。所謂生れが違ふと云ふのは、感と關心の持つて居る興味であつたが、不幸にして書記生上りの團長にはエスカッパされ、巧利的なオポチュニ

和洋菓子製造卸小賣

土田菓子店

土田 繁太郎

レヂストロ市街地

内外雜貨食料品

前田裁縫店

前田 龜鶴

レヂストロ市街地

内外雜貨食料品

島袋忠五郎商店

チユキア線アレクソリン驛

レヂストロ市街地

島田裁縫店

たきものは申出でよ、サンバウロの海興にゐる

…明德移民部長…

とは最も親しい間柄であるから其の希望に添ふやうする、云々」と約束した、余は監督心得に準じ配膳は海興支店の

選ばれたチユングロリ嬢

世界一美人

なるものを聞き、世界各國から馳せ参じた三萬二千の美人を標準にして、美人としての肉體的條件を定めしめた

そしてこの條件に最もよく適合するとしてチユングロリ嬢を一九三四年の代表美人として推薦したもので、彼女はロサンゼルスに育ち、フレマウソント・ハイ・スクールを卒業したインテリ女子

御参考までに彼女の身體の寸法を紹介すると

胸圍九八、九センチ

腰圍九一、四センチ

ももつけ根の圍り五二、〇センチ

といつたやうなわけで、肩圍り九三、〇センチ

祝渡伯二十五周年

内外雜貨食料品

宮平商店

宮平 牛助

チユキア線セードロ驛

祝渡伯二十五周年

雜穀珈琲仲買運送業

土井万七

チユキア線チユキア驛

祝渡伯二十五周年

和洋御料理仕出し

小松敬一郎

ホテル・リベイラ

レヂストロ市街地 郵函二十九番

祝渡伯二十五周年

干魚同業組合

レヂストロ

祝渡伯二十五周年

尾山 龜吉

レヂストロ市街地

年周五廿祝

ペンソン二葉

宮城 キミ子

チユキア線アレクソリン驛

祝渡伯二十五周年

岡本製茶園

岡本 寅藏

イグアツベレヂストロ



岡本製茶園

岡本 寅藏

イグアツベレヂストロ

祝渡伯二十五周年

尾山 龜吉

レヂストロ市街地

年周五廿祝

ペンソン二葉

宮城 キミ子

チユキア線アレクソリン驛





けふ、行はる 渡伯二十五周年祭

邦人渡伯二十五周年記念祭は愈々本日大規模な行事で進行され...

功勞者表彰

本市總領事館では本日、記念祭を期して過去二十五周年におい...

棉作目あてに 早くも非難論持上る

アパレーからアグロドスへかけ大の男に劣らぬ能率があり、...

我が外務省

聞く所によれば我が外務省では邦人渡伯二十五周年を...

記念催物

柔剣道試合大会は本日午後二時から労働会館で舉行されるが...

桑バウロ

元總領事館勸業部勸業課長 桑バウロ 元總領事館勸業部...

祝渡伯廿五周年

前表より考ふるに、既往二十五周年に聖州に入植した移民...

開業御披露

今度皆様のすまぬに、よりまして同胞渡伯廿五周年記念日を期し...

祝渡伯廿五周年

祝渡伯廿五周年 祝渡伯廿五周年 祝渡伯廿五周年...

浪花亭

浪花亭 浪花亭 浪花亭...

祝渡伯廿五周年

祝渡伯廿五周年 祝渡伯廿五周年 祝渡伯廿五周年...

Arrancador de Algodão "Systema Sanzi" 御推薦 州農務省 州農務部 州農務局長 州農務局長 州農務局長...

Pequeno Lavrador FRANCISCO DAULNY Rua Butantan, 57-B S. Paulo 種 苗木 種子、果樹苗及庭園の植木各種取揃...

祝渡伯二十五周年 吉備共同商會 祝渡伯二十五周年 祝渡伯二十五周年...

祝渡伯廿五周年 祝渡伯廿五周年 祝渡伯廿五周年...

# NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonês de maior circulação no Brasil

Ano XIX

São Paulo - Domingo, 18 de Junho de 1933

Num. 837

NIPPAK SHIMBUN

Director-Proprietario:  
SACK MIURA

Director da pagina brasileira: José Solé

Redação, Administração e Oficinas:  
Rua da Liberdade, 144-A e 146  
Caixa Postal, 375  
Telephone 2-3926  
Endereço Telegrafico: "Nippak"  
SÃO PAULO - Brasil

ASSIGNATURAS  
Para o Brasil

Por anno . . . . . 30\$000  
Por semestre . . . . . 16\$000  
Numero avulso . . . . . \$500

Para o Exterior

Por anno . . . . . 60\$000

Annuncios

Temos á disposição dos interessados  
uma tabella completa de preços para  
annuncios nesta folha. Telephone 2-3926

## 25 annos de progresso

### A commemoração do 25.º anniversario da colonização japonesa no Brasil

Completa á 18 do corrente um quarto de seculo que a corrente emigratoria tendente á desafogar o Imperio do Sol Nascente da super população se encaminha para as terras brasileiras. Desde a primeira leva de trabalhadores que aqui aportou, á bordo do vapor "Kassado Marú", em 1908, até os chegados hontem foram todos recebidos pelo povo e governos do paiz, com maximo carinho e attenção. Por sua vez, o nipponico que aqui aporta, fez-se merecedor da amizade e elle dispensada pelo seu caracter probo, trabalhador, respeitador das leis e da familia e pelo amor que lhe desperta a sua nova patria.

Para solemnizar a festiva data foi organizado o seguinte programma, que terá inicio ás 9 horas da manhã de domingo, 18 do corrente, na sede sita em Villa Mariana, onde deverá ser erigido o Hospital Japonês. A's 9 horas da manhã, abertura da commemoração do 25.º anniversario do inicio da emigração japonesa para o Brasil, pelo exmo. sr. Consul do Japão em S. Paulo, sr. Uchiyama, presidente da Commissão organizadora dos festejos. Será cantado o hymno nacional do Japão, em córo. Leitura de felicitações pela data festiva, feita pelo exmo. sr. Embaixador do Japão no Brasil, sr. Hayashi.

acatarão ao governo local, como haviam obsecido ás leis de sua terra de origem. Com um amor ao trabalho e uma disciplina admiravel, entregaram-se quasi todos ao amanho da terra. E não escolheram, para exercer suas actividades, os terrenos reputados de primeira qualidade para a agricultura. Aceitaram terras boas e ruins. Aquellas elles as aproveitaram melhor do que quaisquer outros. As outras, elles melhoraram com methodos que, a dizer a verdade, não costumavamos applicar no Brasil. Incrementaram, em São Paulo e Matto Grosso, a cultura do arroz, do bicho da seda e do algodão, com processos aperfeiçoados. Estabeleceram-se nas regiões luxuriosas mas inhospitas do Amazonas, que elles valorizaram imensamente com os seus nucleos de povoamento, onde reinam uma ordem e uma hygiene modelares. Tanto lá como aqui em São Paulo, elles mantêm os seus habitos e tradições. E' levisna, porém, a afirmativa de que não se adaptam ao meio, e evitam a conveniencia dos brasileiros. Provas evidentes da falsidade de tal asserção residem no já considerado numero de casamentos entre nipponicos e brasileiros, na adhesão ao catholicismo de grandes grupos de japonezes, e na orientação de suas escolas, em que é ministrado, de modo elogiavel, o ensino da nossa lingua.

1908. Pela primeira vez os pucutos pescadores e habitantes do porto de Santos assistiram ao desembarque de trabalhadores japonezes. Pela primeira vez o épico grito de «Banzai!» sahindo do peito forte de mais de 100 japonezes cortou os ares brasileiros, como um clarim alegre dos bandeirantes amavellos que depois de tres mezes de viagem no Kassado Marú, pisavam firme a terra da promissão, deixando longe, muito longe a sua terra bella, pequenina e polycromica, em busca de melhores dias e mais expansão para os seus filios.

São passados vinte e cinco annos. Quanta transformação operaram nesta immensa sedra os nipponicos?! Quanta cousa boa e proveitosa trouxeram-nos na sua bagagem de immigrante?! As terras estereis em breve transformaram-se em lindos campos de arrozaes, algodão, e a par do ouro negro começou a larva a tecer o verdadeiro ouro — a seda. A batata, o milho, o fumo, o tomate, o morango e tudo em grande escala brotou da terra, valorizando-a e abastecendo o mercado interno com abundancia.

Registro, Iguape, Cotia, e toda a zona noroeste são uma prova viva do acima exposto, um flagrante da actividade do trabalhador nipponico no Brasil, que por vez o acolhe de bom grado e não lhe põe entrave na sua expansão por que é uma das cellulas do seu progresso.

Viva! viva aos nipponicos que abraçados aos brasileiros ajudam a levar avante o grande mastro onde tremula o auri-verde pendão do Brasil.

Em todos os nucleos colonias japonezes existem em contacto diario trabalhando ao lado dos nipponicos, brasileiros italianos e hespanhoes vivendo em perfeita harmonia.

Todos os centros onde existem creanças japonezas ha escolas onde elle é ministrado o ensino brasileiro.

O braço do trabalhador japonês tem sido um poderoso auxiliar do grande progresso paulista nestes vinte e cinco annos, e cada vez será mais, pois o nosso intercambio com os paizes europeus e americanos tende a augmentar e a produção de todos os nossos productos está sendo multiplicada pelo esforço do colono nipponico.

A actividade japonesa no Brasil é empregada em todos os ramos e misteres. No Pará, Amazonas, onde ainda a colonização é pequena produzem grande quantidade de cereaes, fumo, borrachs, guaraná, coco babassú, cera de carnaúba e madeiras de lei.

Em S. Paulo, nas zonas da Alta Paulista, Sorocabana, Mogiana e Noroeste, produzem em grande escala: café, algodão, casulos de seda e cereaes.

Em Campinas: casulos de seda, café, algodão, cereaes e legumes. Em Cotia, Itapetirica, S. Roque, Osasco e adjacencias: batatas (as melhores do mercado) tomates, fructos e hortaliças.

My das Cruzes, Itaquera: tomates e fructas. Pindamonhangaba, café e cereaes.

Santos: pesca, peixes salgados e em conserva, legumes e fructas. Ribeirão Preto: charnáo, fructas e legumes.

Registro, Iguape: Juquiá é o lugar da maior actividade japonesa no Estado, allí produzem: chá, fumo, arroz, casulos de seda, cereaes em grande escala, café, fructas, aguardente, criação de suínos, e fabricação de carvão vegetal.

Em todos os nucleos colonias japonezes existem em contacto diario trabalhando ao lado dos nipponicos, brasileiros italianos e hespanhoes vivendo em perfeita harmonia.

Todos os centros onde existem creanças japonezas ha escolas onde elle é ministrado o ensino brasileiro.

O braço do trabalhador japonês tem sido um poderoso auxiliar do grande progresso paulista nestes vinte e cinco annos, e cada vez será mais, pois o nosso intercambio com os paizes europeus e americanos tende a augmentar e a produção de todos os nossos productos está sendo multiplicada pelo esforço do colono nipponico.

Entrega de Diplomas de Honraria, aos illustres membros da colonia e a di-tactos brasileiros que á elle fizeram jús esforçando-se na grandiosa e benemerita obra de aproximação nippo-brasileira. Entre esses illustres homenageados figuram os srs. dr. Carlos Botelho, dr. Eugenio Lefevre, dr. Candido Vargas Monteiro e dr. Henrique Ribeiro.

Lançamento da pedra fundamental do Hospital Japonês. Será offertado por essa occasião um luto almoço para o qual foram convidados os governos da Nação e do Estado, Prefeito Municipal, chefe da 2.ª região Militar, chefe do Departamento do Trabalho, os srs.: Rio Mizuno, Shuhei Uyeiuku, Teijiro Suzuki, Umekichi Akeho, Masahiko Matsushita, Jun-nesuka Kato, Takeo Goto, e varias outras pessoas de destaque na colonia japonesa e no mundo official brasileiro.

A's festividades serão encerradas com um vasto programma de luctas de Jiu Jitsu e esgrima, que terá inicio ás 18 horas organizado pela Federação de Jiu-Jitsu e Esgrima Japonesa, no salão das Classes Laboriosas á rua do Carmo, 35, sendo offertados aos vencedores lindos e artisticos tropheus.

Um diario da capital, ha dias, publicou ás lithas abaixo, sobre os japonezes no Brasil: «Os súditos nipponicos que se fixaram no Brasil, desde logo

## DO JAPÃO

(Das Nossas Succursaes)

### Formidavel catastrophe

TOKIO, 7 — Explodiu um deposito de polvora no centro da aviação de Hamatsu, causando varias mortes e ferimentos. Receia-se que o numero de victimas seja maior do que annunciam as primeiras informações.

Diversos edificios foram danificados pela explosão.

Despachos de Tokio informam que se produziram tres explosões successivas.

As explosões atingiram em cheio quasi cinquenta aeroplanos militares que ficaram completamente inutilizados.

### O athleta Koike obteve um novo recorde

Pelas ultimas noticias esportivas vindas de Tokio sabe-se que o esportista japonês Reiro Koike estabeleceu novo recorde mundial de natação, braçada classica, na distancia de 200 metros, no tempo de 2' e 41", batendo por dois segundos o melhor tempo anterior, de que era detentor Yoshiyuki.

### Na Conferencia Economica Mundial

Telegrammas vindos de Tokio annunciam, de fonte autorizada, que além das directrizes recebidas antes de deixar Tokio, os delegados japonezes á Conferencia Economica e Monetaria Mundial não tiveram nenhuma nova instrução do governo nipponico.

Inspirados no desejo de libertar o mundo das difficuldades oriundas da presente crise, os delegados japonezes são, decididos partidarios de livre cambismo e da abolição das barreiras aduaneiras que ora paralyzam o commercio internacional.

Nos meios b m informados assegura-se mais que o governo japonês está disposto a assignar um accordo dessa natureza. Nos meios officiaes observa-se, entretanto, que as tarifas em vigor no Japão e que ha dez annos não foram augmentadas, são, relativamente moderadas.

### A Inglaterra está provocando uma guerra commercial

Se o governo inglez persistir na elevação das tarifas alfandegarias sobre os productos "mad in Japan" é de prevê-se uma guerra commercial entre os dois paizes.

Ela o que relate a agencia A. P. em um telegramma procedente de Tokio:

«Neste momento, vespera da reunião da Conferencia Economica Mundial, paira sobre a Asia a ameaça de uma guerra commercial entre os imperios britannico e japonês.

O ministro dos Negocios Estrangeiros confessou que o governo japonês está seriamente preocupado com a situação e estuda com o maximo cuidado as medidas que deve tomar para contrabalançar a politica tariffaria aggressiva, geralmente anti japonesa, no imperio britannico.

O Japão considera a questão um caso de vida ou de morte.

A elevação das tarifas nas indias para os tecidos de algodão é o ultimo da série de acontecimentos do anno passado, inclusive a denuncia do tratado commercial sino-japonês.

Uma personalidade que priva de intimidade do governo disse que, se os productos japonezes forem excluidos do mercado do imperio britannico, a consequencia dessa situação será o estabelecimento da hostilidade para com a Inglaterra nos meios industriaes e commerciaes japonezes.

Um outro communicado annuncia que o governo japonês endereçou ao governo do vice-reinado da india um telegramma de protesto contra a imposição do direito excepcional "ad valorem" de 75 % sobre os tecidos de algodão cor de cinza não fabricados no Reino Unido. A medida foi determinada pela depreciação do valor do yen.

Os meios autorizados nipponicos advertem a esse respeito que a criação da nova barreira alfandegaria não parece corresponder ás aspirações e interesses do vice-reinado e salientam que, na hypothese deste demonstrar disposições mais conciliatorias, o governo de Tokio poderia estudar o estabelecimento de um systema de "controle" das exportações dos artigos textis.

### A disputa da taça "Davis"

#### Mais uma victoria dos japonezes

Continua a disputa do famoso trophéu "Davis".

Os encontros de duplas em disputa das eliminatorias entre os representantes do Japão e da Alemanha, terminaram com a victoria dos primeiros.

Sato e Nuno bateram Gram e Nourney pela contagem de 6/2, 6/3, 3/6 e 6/1.

A disputa da taça "Davis" este anno apresenta varias faces diferentes dos ultimos annos.

Caso esse famoso trophéu for levado pelo Japão, dado ao grande enthusiasmo nacionalista e as difficuldades de acclimação, a taça "Davis" conservar-se-á em mãos dos nipponicos por muitos annos.

### O presidente da Camara dos Lords demittiu-se

Segundo um communicado da United Press, Lord Tokugawa apresentou sua demissão de presidente da Camara dos Lords, cargo esse que vinha occupando ha trinta annos consecutivos.

Ao que consta o imperador Hirohito accellou o pedido de demissão.

### Resposta á mensagem do presidente Roosevelt

Foi telegraphada de Tokio para Washington a resposta do governo japonês á mensagem enviada pelo presidente Roosevelt ao Japão.

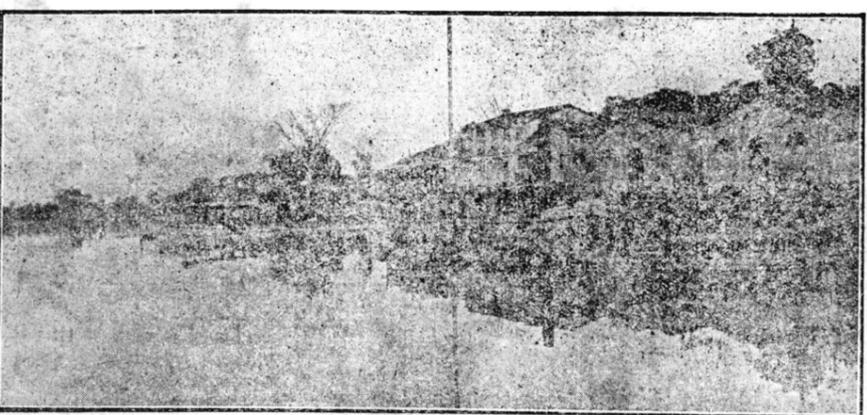
O teor da resposta é o seguinte:

«A politica nacional do governo japonês visa essencialmente contribuir para o estabelecimento da paz universal e cooperar para bem estar da humanidade em geral. E', assim, cordalmente acolhido pelo povo japonês o apello do presidente Roosevelt no sentido de assegurar o exito da Conferencia Economica e do desarmamento pela collaboração commum. No tocante a Conferencia de Londres o governo japonês está firmemente decidido a collaborar com os demais governos para tentar restabelecer a prosperidade e o bem estar de todos os paizes, livrando-os dos males decorrentes da presente crise mundial.

Quanto aos trabalhos da Conferencia do Desarmamento, o governo japonês é um dos que mais se interessa pelo seu exito e nesse sentido desenvolve os maiores esforços. O governo japonês julga que as suas intenções concordam nesse particular com os nobres desejos expressos pelo Sr. Roosevelt e que visam obter a certeza de que a paz reina no mundo inteiro. Os pontos de vista do governo japonês sobre as diferentes medidas annunciadas pela mensagem Roosevelt poderão ser propostos se se apresentar oportunidade.

O governo japonês confia, em fim, com sinceridade, em que as negociações das duas grandes conferencias a abrirem se proporcionará o mais rapidamente possível justas e equitativas soluções para todos os problemas que serão objecto de suas discussões e lográo eliminar todas as difficuldades que ora se depuram ao mundo inteiro».

祝邦人渡伯二十五周年  
昭和八年六月  
豊吉商店  
サンパウロ市ルア・セーレス二  
電話二四四二  
郵便二四四二  
三五七番



O porto de Registro — Um dos mais pittorescos recantos brasileiros que deve seu brilhante progresso á actividade do trabalhador japonês

Impressos?  
Procure a  
TYP. "NIPPAK"  
Rua Liberdade, 146  
São Paulo — 148

INTERCAMBIO BRASIL-JAPÃO  
A safra paulista de algodão, este anno, elevou-se a 28 milhões de fios, o que vem provar a grande expansão que está sendo dada a essa cultura no Brasil.  
Continuando o augmento óra verificado nessa produção, em breve, poderá a industria textil brasileira usar em seus artigos producto exclusivamente nacional e, ainda, haverá margem para abastecer os mercados estrangeiros, pois, segundo informa o consulado do Brasil em Kobe acaba de ser feita a primeira encomenda, por interessados, de 50 fardos de algodão brasileiro, em quatro qualidades de fibras, para estudos experimentaes nas tecelagens japonezas.